

1. 自己評価及び外部評価結果

【事業所概要（事業所記入）】

事業所番号	4070401627		
法人名	社会福祉法人 鷹羽会		
事業所名	グループホーム 花みずき		
所在地	福岡県北九州市小倉北区篠崎一丁目9番6号 (電話) 093-592-3605		
自己評価作成日	平成 25 年 6 月 10 日	評価結果確定日	平成 25 年 9 月 6 日

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点（事業所記入）】

同じ敷地内に同一法人の運営するデイサービスセンターと軽費老人ホームがあります。年中行事の共同開催や多様なクラブ活動への自由参加等を通じて、ホームの外の方々との交流の機会があり、生活の幅が広がります。

※事業所の基本情報は、介護サービス情報の公表制度のホームページで閲覧してください。

基本情報リンク先URL	http://www.kaigokensaku.jp/
-------------	---

【評価機関概要（評価機関記入）】

評価機関名	社会福祉法人 福岡県社会福祉協議会		
所在地	福岡県春日市原町3-1-7		
訪問調査日	平成 25 年 7 月 31 日		

【外部評価で確認した事業所の優れている点・工夫点（評価機関記入）】

事業所の印象として職員が元気で笑顔があふれている様に感じられる。事業所では利用者自身の手足でトイレ、食事が出来る事を目標としている。利用者から調理、裁縫、洗濯の仕方、干し方やたたみ方を始め、昔からの智慧や美徳について職員が教えられるという協働、共助の生活を行っている。母体法人で開催されている陶芸、手芸、書道等の多種多彩なクラブ活動にも参加している。特に、地域への取り組みは、町内会との防災協定の実施等に見られるように先駆的である。園長（理事長）の地域への奉仕の姿勢、管理者の実直で介護への真摯な姿勢、職員の明るさと屈託のなさについてここで特記しておきたい。

項目番号		項 目	自己評価 実践状況	外部評価	
自己	外部			実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
【 I 理念に基づく運営】					
1	1	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	運営理念、方針は事業所内に掲示しており、毎日の朝礼やグループホーム会議で唱和して確認行い周知に努めている。	理念に地域密着の視点を有し、朝礼、終礼ミーティングなどで理念の介護への反映に努め日々点検し合っている。その具体的取り組みとして笑顔の多い介護を心がけている。	
2	2	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自身が地域の一員として日常的に交流している	年中行事にお招きしたり、近隣の神社の清掃の奉仕に伺うことや地域の文化祭に作品を出展することなどを通じて交流の機会を図っている。	2ヶ月に1度の神社への清掃参加をはじめ、母体法人と共同で行われる夏祭りへの地域住民との参加、幼稚園との交流、利用者の散歩中に農作物を頂くなど地域との交流は日常的になされている。	
3	—	○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	地域交流会の中で認知症サポーター養成講座を開き、認知症の理解に繋がる取り組みを行っている。	/	/
4	3	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	常に、利用者にとって過ごしやすい環境を提供できることが第一と考えて、参加者メンバーからの提案を大切に受けとめてサービスの向上に努めている。	2ヶ月に1度の頻度で運営推進会議が開かれている。委員からの提案による秋祭りの子供みこしの事業所敷地内への訪問が、自治会長への調整で実現している。地域の独居生活が困難な老人への対応を提案され、民生委員と協力して入所へのサポートを行った事例があげられる。	
5	4	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる	運営推進会議のメンバーである地域包括支援センターの職員を通じて市の担当者との繋がりがあり、またグループホーム協議会の研修に市の担当者との意見交換を行う機会がある。	日頃から事業所の実情を報告するなど機会を持つほか、グループホーム協議会へ参加しており、年間スケジュールをたてて年に1～2回の頻度で行政職員との意見交換、研究会を行っている。	
6	5	○身体拘束をしないケアの実践 代表者及び全ての職員が「指定地域密着型サービス指定基準及び指定地域密着型介護予防サービス指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	定期的に外部研修に参加したり、施設でも事故防止委員会において「身体拘束を行わないケア」の為の研修を開いて理解に努めている。	終日居室、玄関は施錠をしていない。玄関にはセンサーを設置している。利用者の外出傾向と発生しやすい時間帯も職員全員で把握している。外部、内部での研修がなされており、研修記録や報告書も保管されている。	

項目番号		項目	自己評価 実践状況	外部評価	
自己	外部			実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
7	—	○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	定期的に外部研修に参加したり、施設でも事故防止委員会において「虐待を行わないケア」の為の研修を開いて理解に努めている。		
8	6	○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	外部の研修への参加や内部の研修にて理解を深め、入居の際にはご家族へ制度の概要を伝えている。	権利擁護に関する制度の説明は利用者、家族に対して利用開始時になされている。研修については内・外部研修を受講する機会があるが、権利擁護に関する研修記録について平成22年度分は存在するがそれ以降は確認できない。	外部・内部研修での資料や記録等については、職員がいつでも閲覧し学ぶことができるよう保管して欲しい。
9	—	○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約または改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	契約時には契約書、重要事項について説明を行い疑問や質問に答えながら納得した上でサインを頂いている。同じく、制度改定時に説明を行い納得の上サインを頂いている。		
10	7	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	介護サービス計画書を作成する際に利用者、家族の希望を確認してその希望を踏まえて計画書を作成し、了承頂いている。また、定期的にアンケートを取り、意見や要望を確認してそれらを運営に反映させるようにしている。	管理者・職員と利用者・家族とは話しやすい関係を構築している。事例として、お寺参りを希望する利用者には定期的に職員同伴でお参りのサポートを開始している。また、寿司を希望する利用者には、誕生日等に店に連れて行く取り組みを取り入れている。外出の増加にも対応している。	
11	8	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	グループホーム会議、スタッフ会議や全職員合同の会議の中で意見交換の場があり、反映させられるように努めている。	管理者は職員と一緒に現場で介護を実践しており、グループホーム会議、朝礼・終礼時を始め職員と折々に接触して意見を聞いている。利用者個々の配膳（刻み食、分量の差異等）を円滑にするためにネームプレートを付けることを提案され実施している。	
12	—	○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	毎年の昇給、毎月の勤務表に職員の希望する休日をできる限り組み入れるようにしている。また年休を取れるように支援している。		

項目番号		項目	自己評価 実践状況	外部評価	
自己	外部			実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
13	9	○人権の尊重 法人代表者及び管理者は、職員の募集・採用にあたっては性別や年齢等を理由に採用対象から排除しないようにしている。 また、事業所で働く職員についても、その能力を発揮していき生きとして勤務し、社会参加や自己実現の権利が十分に保障されるよう配慮している	職業意識を持ち勤勉な方を採用したいと望んでいる。また、配属は各自の能力を生かせるよう適材適所にと努めている。	職員の年齢構成は22歳～66歳、男女構成は男性2名、女性8名で定年は60歳であるが、気力と体力があれば延長ができ、年齢は問わない方針である。人材育成にも積極的に特に介護福祉士資格取得には、事業所が積極的にバックアップしている。	
14	10	○人権教育・啓発活動 法人代表者及び管理者は、利用者に対する人権を尊重するために、職員等に対する人権教育、啓発活動に取り組んでいる	代表者は民生委員を務めており、職員は外部、施設内研修において人権教育を受ける機会がある。	研修については内・外部研修を受講する機会がある。平成23年度の人権教育・啓発活動に関する研修報告書は確認できるが、それ以降については確認できない。	外部・内部研修での資料や記録等については、職員がいつでも閲覧し学ぶことができるよう保管して欲しい。
15	—	○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	職員は外部、施設内研修において資質向上につながる研修を受けることができる。		
16	—	○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	福岡県のグループホーム協議会に所属し定期的に開催される研修を受けられることや協議会の他のグループホームの職員との交流の機会がある。		
【Ⅱ 安心と信頼に向けた関係づくりと支援】					
17	—	○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	見学や利用開始時には本人や家族の希望や不安について伺い、それらを解決できるように関係者と協議している。		
18	—	○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	見学時や利用開始時において家族の困っていることや不安について伺って、安心して利用できるように関係者と協議して解決に努めている。		

項目番号		項目	自己評価 実践状況	外部評価	
自己	外部			実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
19	—	○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	利用するにあたっての経緯を伺う中で、まず必要としている支援を明確化して必要なサービス利用へ繋げられるように支援に努めている。		
20	—	○本人と共に過ごし支え合う関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	今までに経験のある調理や手芸、昔からの慣わしなど、利用者と職員との共有時間の中で、利用者より知恵を授けて頂ける機会がある。		
21	—	○本人を共に支え合う家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	好きだった場所や以前住んでいた場所へのドライブや訪問ができるように努めている。		
22	11	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	訪問は就寝時間前までは可能として、訪問しやすいように努めている。友人が訪問する方もおられる。	管理者、職員は利用者の馴染みの場所や人について把握している。暑中見舞いや年賀状作成のサポートを行っている。母体法人の軽費老人ホームとの利用者同士の交流は盛んである。また、ドライブ等では利用者が昔生活していた付近を希望により走ることが度々ある。	
23	—	○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	利用者の環境が和やかで支えあえるような状況になるように職員は橋渡しに努めている。		
24	—	○関係を断ち切らない取り組み サービス利用（契約）が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	契約終了後も連絡を取り、必要があれば相談に応じられるように努めている。		

項目番号		項 目	自己評価 実践状況	外部評価	
自己	外部			実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
【Ⅲ その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント】					
25	12	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している。	利用開始時や日々のやり取りやサービス計画書作成時に本人の意向を確認してサービス計画書に反映させている。	意思疎通の困難な利用者には、管理者・職員が介護経験の蓄積から所作、行動から考えられる選択肢を提示して利用者の意思を引き出している。事例として、利用者の動きや移動の状況から、空腹、トイレ、外出希望等をほぼ的確に判断している。家族からの情報収集、利用者への声かけを頻繁に行っている。	
26	—	○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	利用開始時のアセスメントにて状況を把握して、利用開始後もその人らしさが継続できるように努めている。		
27	—	○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	一人ひとりの体力やその日の体調に沿った過ごし方に努めている。		
28	13	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	サービス計画書を見直す時期には本人、家族、関係者と意見やアイデアを出し合ってサービス計画書を作成している。	介護計画は、6ヶ月に1回見直しを行っている。家族に対しては、見直しの時期に前もって意見を聞いている。また、担当職員の意見も計画に反映されている。変化があった時は、会議に持ち込み計画変更の必要があれば随時見直しを行っている。	
29	—	○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	日々の様子は昼夜において記録して状況の把握に努め、計画書に活かしている。		
30	—	○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	本人の希望やその人らしく生活して頂けるよう併設施設とも協力体制ができています。		

項目番号		項目	自己評価	外部評価	
自己	外部		実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
31	—	○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	利用者の希望する生活を家族と共に支援できるように努めている。		
32	14	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	本人や家族の意向によりかかりつけ医を選択して頂き納得した医療を受けられている。	本人や家族の希望する医療機関へ受診している。9名中7名は嘱託医による往診を受けている。心身に変化があったり、急病の場合は救急病院へ職員が付き添い受診（救急車による搬送もある）し、その結果を家族に報告している。	
33	—	○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	利用者の心身の状態において気になる点については医療従事者へ相談している。		
34	—	○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、また、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている	入院時には病院担当者と連絡を取り、現況の把握に努めて、今後の準備体制を整えている。		
35	15	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	利用者の状況の変化に伴って家族や関係者と協議して今後の方針を立てている。	管理者が利用開始時に、家族や本人に看取りはせず、重度化し常時医療的な管理の必要時は、契約を終了することを説明し面談表に記録を残している。終末期の方針があり全職員が理解しているが、明文化はしていない。今年度利用契約書の契約終了の項目に、「利用者が常時医療的な管理が必要となったとき」を加えられている。	早い時期から重度化した時の迎え方や対応の仕方について、本人・家族及び関係者との意思を確認する書類を作成し明文化することを希望する。
36	—	○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	外部研修や施設内研修において定期的に訓練を受けて周知に努めている。		

項目番号		項目	自己評価 実践状況	外部評価	
自己	外部			実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
37	16	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	地域との協力体制を築きつつ、定期的に避難訓練を行なっている。	マニュアルを作成している。東ノ尾2丁目で防災協定を結んでおり、年1回合同防火訓練を行っている。また、年2～3回単独で防火訓練を行っており、駐車場や中庭を避難場所としている。非常用備品を事業所内に準備している。	
【IV その人らしい暮らしを続けるための日々の支援】					
38	17	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	定期的に外部研修や内部研修にて人権やプライバシーの保護について研修を行い理解に努めている。	入浴やトイレは一人ずつとし、他の方の目に触れないようにし、威圧的にならないように抑えたトーンでゆっくり丁寧にするよう心がけている。また、複数の職員で手早く介助を行っている。プライバシーに関する話は部屋か電話、面談で行うようにし、他の方に聞かれないように配慮している。	
39	—	○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	利用者が選択できる場面では本人の思いや希望を汲み取り、尊重している。		
40	—	○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切にし、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	日々のやり取りの中で一人ひとりが望んでいることを確認し、強制しない過ごし方ができるように努めている。		
41	—	○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	一人ひとりの好みを尊重した支援に努めている。		
42	18	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	希望食作りの日を設け、準備や調理、後片付けを通じて、一人ひとりができることに参加している。	職員は、朝食を利用者と一緒と同じ内容のものを食べている。昼食・夕食については、別の内容のものだが一緒に食べている。メニューは、栄養士が立てるが、希望食の日を決めて好き嫌いを考慮し、希望のあったものを作って食べている。（主に日・祝日）	

項目番号		項目	自己評価 実践状況	外部評価	
自己	外部			実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
43	—	○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	一人ひとりの状況に応じて食事形態や量を整えて提供し、その摂取量を記録して状態の把握に努めている。		
44	—	○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないように、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	毎食後に口腔ケアの時間をもち支援している。歯科検診を実施し必要時には治療のための支援をしている。		
45	19	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	定期的に排泄介助を行うことで失禁の予防に努め、一人ではトイレに行けない方には排泄のサインを確認した時に随時排泄介助を行う。	排泄パターンを把握しトイレ誘導をすることで、オムツ内での排尿が少なくなり、失禁が減り、そのことが物忘れの改善にもつながった事例がある。	
46	—	○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	食事は栄養士の立てた献立を調理して提供しており、日課に体操や散歩を組み入れている。		
47	20	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めず、個々にそった入浴の支援をしている	基本的には一日おきの入浴ですが、毎日入浴できるように準備して一人ひとりの状況によって入浴できるようにしている。	自宅での入浴に近付けるように毎日午後に行っている。入浴の声かけをして入らないと言えは無理強いをしない。翌日入浴する気になって入ることがあるので、臨機応変に対応している。利用者の中で声をかけてくれる方がいて、その声かけで入ることもある。皮膚疾患のある方で週3回入浴することで改善した事例がある。	
48	—	○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	日中は、体操や散歩等の活動的な時間と休息の時間を織り交ぜながら過ごして頂けるように努めているが、一人ひとりの体調を考慮しながらまた無理強いしないように努め、夜の安眠へ繋がるように努めている。		

項目番号		項目	自己評価 実践状況	外部評価	
自己	外部			実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
49	—	○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	用法や用量を守り、服薬時には誤薬予防のため職員2名で確認して服用援助している。		
50	—	○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	併設の事業所との協力で多様なクラブやレクリエーションの提供ができることから好きなことができる支援に努めている。		
51	21	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。また、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	日課の中に散歩の時間を設けて外出できるように支援し、遠方への外出は定期的に計画している。ご家族の理解により、ご家族付き添いで希望に沿った外出ができている方もいる。	散歩については、真夏・真冬を除き毎日出かける。真夏・真冬は隣接する軽費老人ホーム内を歩いている。外食については、年2～3回行っている。買い物については、移動売店を利用し、外に買い物に行きたい方は職員が備品等を買に行く時に一緒に行くことがある。ドライブは、月に3回程度、北九州各区に行っている。	
52	—	○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	利用者により少額のお金を所持していて、訪問売店や外出の機会に欲しいものを購入している。また、所持していない方も希望があれば預かり金からお小遣いとして使うことができるようにご家族から了解を得ている。		
53	—	○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	年賀状や暑中見舞いなどが出せるように支援し、希望があれば家族への電話を繋いでいる。また、毎月の便りに近況がわかる写真を掲載している。		
54	22	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間（玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等）が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激（音、光、色、広さ、温度など）がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	テレビの音量や照明に配慮し、花を飾ることや気候のよい時には、天窓を開放して空気の流れを整え、快適さに配慮している。	心が和むものが視界に入るように工夫されている。共用空間の至る所に、四季折々の入居者の作成した折り紙や習字が貼ってある壁面と柔らかな光の差し込む天窓があり、懐メロや唱歌が流れている。	

項目番号		項目	自己評価 実践状況	外部評価	
自己	外部			実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
55	—	○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	気軽に共有スペースのイスやソファで過ごすことができるようにしている。		
56	23	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	以前から愛用していた物をお持ち頂いて自分の好まれる居室作りをして頂いている。	本人や家族と相談しながら、自宅からラジオ、テレビ、写真、カレンダー、食器、タンス等の調度品や雑誌等を持ちこみ、利用者が生活しやすい様に設えている。	
57	—	○身体機能を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの身体機能やわかる力を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	全フロアはバリアフリー、皆が集まる食堂ホールを中心に置いて全居室の入り口が見渡せることで、各自が自室を確認しやすいように配置している。廊下、居室や浴室は手摺りを設置している。		

項目番号		項 目	取 り 組 み の 成 果	
自己	外部		(該当する箇所を○印で囲むこと)	
V サービスの成果に関する項目（アウトカム項目）				
58	-	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる。 (参考項目：25, 26, 27)		①ほぼ全ての利用者の
				②利用者の2/3くらいの
			○	③利用者の1/3くらいの
				④ほとんど掴んでいない
59	-	利用者と職員が一緒にゆったりと過ごす場面がある。 (参考項目：20, 40)		①毎日ある
				②数日に1回程度ある
			○	③たまにある
				④ほとんどない
60	-	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている。 (参考項目：40)		①ほぼ全ての利用者が
				②利用者の2/3くらいが
			○	③利用者の1/3くらいが
				④ほとんどいない
61	-	利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている (参考項目：38, 39)		①ほぼ全ての利用者が
				②利用者の2/3くらいが
			○	③利用者の1/3くらいが
				④ほとんどいない
62	-	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目：51)		①ほぼ全ての利用者が
				②利用者の2/3くらいが
			○	③利用者の1/3くらいが
				④ほとんどいない
63	-	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている。 (参考項目：32, 33)		①ほぼ全ての利用者が
			○	②利用者の2/3くらいが
				③利用者の1/3くらいが
				④ほとんどいない
64	-	利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らしている。 (参考項目：30)		①ほぼ全ての利用者が
			○	②利用者の2/3くらいが
				③利用者の1/3くらいが
				④ほとんど掴んでいない

項目番号		項 目	取 り 組 み の 成 果	
自己	外部		(該当する箇所を○印で囲むこと)	
V サービスの成果に関する項目（アウトカム項目）				
65	—	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができています。 (参考項目：9, 10, 21)	○	① ほぼ全ての家族と
				② 家族の2／3くらいと
				③ 家族の1／3くらいと
				④ ほとんどできていない
66	—	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている。 (参考項目：2, 22)	○	① ほぼ毎日のようにある
				② 数日に1回程度ある
				③ たまにある
				④ ほとんどない
67	—	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりの拡がりや深まりがあり、事業所の理解者や応援者が増えている。 (参考項目：4)	○	① 大いに増えている
				② 少しずつ増えている
				③ あまり増えていない
				④ 全くいない
68	—	職員は、生き活きと働いている。 (参考項目：11, 12)	○	① ほぼ全ての職員が
				② 職員の2／3くらいが
				③ 職員の1／3くらいが
				④ ほとんどいない
69	—	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う。	○	① ほぼ全ての利用者が
				② 利用者の2／3くらいが
				③ 利用者の1／3くらいが
				④ ほとんどいない
70	—	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う。	○	① ほぼ全ての家族等が
				② 家族等の2／3くらいが
				③ 家族等の1／3くらいが
				④ ほとんどいない